

第1回 高校生SDGs選手権大会 ポスター発表 説明資料

学校名	福岡県立八幡南高等学校
チーム名 (メンバー名)	「災害対策」 (丹本 七緒、小川 心喜、中西 珠梨、森田 縁、井上 開智)
作品タイトル	「命をつなぐ街づくり」
関係する SDGs のゴール	1 1 「住み続けられるまちづくりを」
説明文	<p>(1) 課題 去年、実際にJアラートが鳴った時に、周囲の人々に緊迫感がなく、すぐにJアラートを止めている人さえいた。テレビでもまったく気にしていない人がいることが放送されていた。Jアラートや緊急地震速報が鳴ってもそれが普通だと思い、危機感がなく、もし地震がきたときに逃げ遅れる人がいることが課題である。</p> <p>(2) 目的・意義 Jアラートや緊急地震速報が鳴ってから地震発生までの間の色々な場面で、実際に何ができるか考えていく。</p> <p>(3) 私たちが考えた課題解決策</p> <p>①学校での避難訓練の内容を変える 今までだと避難訓練がいつ行われるか決まっており、危機感がなかったものを、突然Jアラートや緊急地震速報を流すことで、それに気づいた生徒がいかに早く避難できるかを把握する。情報伝達力・協力性・臨機応変に対応する力を高めることがねらい。</p> <p>②地域と連携して災害避難訓練を行うこと すでに大牟田市では、地域連携避難訓練が行われている。八幡南高校の周りには小学校や幼稚園、住宅街が多い。学校とその周りに住んでいる地域の人達も一緒に参加することで、より良い災害避難訓練を行うことができる。</p>
課題、 今後の展開など	<p>災害避難訓練が自分の住んでいる地域であっているかという話をした際、している地域としていない地域で分かれた。そして、災害避難訓練が行われている地域でも参加者が少ないことが問題視されている。つまり、災害に対しての意識が低いのだ。</p> <p>今後は、ただ災害避難訓練を増やすだけでなく、参加者の呼びかけが必要であると考えます。Jアラートや緊急地震速報が鳴った後、どのように動くのが良いかを考えることのできる災害避難訓練を実施するべきだ。</p>
参考文献等	なし

(説明文は1ページ以内)